



明治廿九年

廣軌鐵局

表紙

特別
14
1919
781

14
1919
781

176924

廿九年



鐵道布設の談柄都鄙に沿ねざるの際に於て廣狹軌道の得失論は端なく我が政治界經濟界の問題となれり左の一篇は衆議院に於て市島謙吉氏より去月二十五日を以て提出せる「帝國鐵道に廣軌制を採用するの建議」案に對し説明として起草されたるものなり時節柄大方の讀者に利益を與ふると尠少に非ざるべしと思はるれば本日より當欄内に掲ぐる

廣軌鐵道論 (其一)

衆議院議員 市島 謙吉

緒言

本年度の議會には戰後經營の名の下に於て各種實業的問題の議案として提出されたるもの少なからず中に就て鐵道布設の法案と豫算とは頗る重要な觀察を遂げざる可らざるに拘はらず之に關するの議論は概ね線路の得失を争ふに止まり未だ曾て運輸組織の完全を計るの工夫を議する者なし余の深く遺憾とする所なり蓋し徒らに鐵道の普及を計り空しく線路の延長を企つるとも運輸の組織にして其の宜しきを得ざる時は功の以て勞を償ふに足らざるものあるを

免れざるべし慎まざる可らざる也運輸組織の完全を計るの工夫一にして足らずと雖も其の最も重要な問題は廣軌道の制を採るに在り其の利益の莫大にして而かも其費用の比較的低廉なる之を採用せざるの國家は國家にして國家に非ざるの感わらしむ方さに今戰後の人心進取を思ふて百般の事業振張に向ふの際に當る苟くも身に立法の職責を負ふ者として這般の問題を等閑に附すること能はざるべし是を以て余は二月三日の議場に於て此の問題に關し質問する所あり當時東海道鐵道復線工事を題目として質問したれども其實は同鐵道のみを目的とせるにあらざりて帝國全体の線路に對し廣軌道採用の必要に付きて述べたるに外ならざること當日の議事速記録に徴して明瞭ならん當時世論の傾向は未だ此種の問題に注目するに至らず余の質問も當だに政府に冷遇されたるのみならず深く議場の注意をも喚起する能はざりしは余の遺憾とせる所なり何ぞ料らん僅々三旬の日子は忽ちにして世上の論壇を一變せしめ政府の當局者より江湖の論客に至るまで競ふて廣軌に關する意見を提供するに至るあらんとは余は輿論の替同斯くまでに迅速な

りしを喜び、か、廣軌、鐵道、論壇、の、郭、腕、たる、の、榮、を、荷、ふ、の、情、に、堪、へ、ず、則、ち、今、回、更、ら、に、帝、國、鐵、道、に、廣、軌、制、を、採、用、す、る、の、建、議、を、提、出、し、ぬ、

今や余の提出案に賛成を表せる同僚は三十餘名と注せり是れ畢竟賛成者を募るに急なりしが爲め其の上の敷を得ざりしのみ提出の後、談ずるとして同意を得ざるはなき有様たることなれば提出案の議事に上るの日は蓋し滿場の可決を経ることならんと思ふ尙ほ他に立石岐君等よりして提出されたる本位軌道採用に關する建議案なるものあり是れ名を異にして實を同ふせるものなれば議事の際となりては相提携して廣軌論の凱歌を唱ふることもならん

思ふに本問題の如きは固より党派問題として争ふべきものにあらざれば同僚諸氏は一切の偏頗心を去り最公平の眼孔を以て審議されんことを望む又た政府の當路者としては實地に有せる諸般の材料を供給して親切に交渉あらんとを冀ふ而して院外の輿論も一齊に廣軌の氣焔を熾んならしむること力に致されんことこそ願はしけれ蓋し廣軌採用の議たる決して技術的専門家の特有すべき問題に非ずして今まは則ち政治的經濟的の緊急問題となれり苟くも身を政治と經濟との局面に置く者に在りては之を今日に冷々看過することを許さざるなり

運輸組織改良の必要

廣軌制の採用を促すの事情は運輸組織の完全を計るより來れるものとせば余は茲に我邦今日の現狀に於て運輸の實際果して改善を要するものなきや否やを吟味せざるべからず余は我邦今日に於ける鐵道運輸の實際は斷つて改善を施すべきものと斷定す比年實業社會の進歩は物貨の運輸を増大し來りたるの一大事實は頗乎として争ふ可らざるの數となれり一昨廿七年度に於ける鐵道運輸の統計なりと云ふを聞くに全國官私の大線路八九を通過して平均の乗客四十五萬人餘、貨物拾貳萬噸に及べり同年度には日清の役起りて人間の往來貨物の運送例年よりも増加し居れりと言ふ者もあらんと雖も之れが一方に於ては戰爭の爲め工商業の沈滞を致し從て鐵道の需用を減少せるの事情もあるに由り右の統計表は平均して大体の事實其の真相を得たるものと見て可なるべし或者は海外諸國の統計に照らし來りて日本の運輸の多額なるは僅かに英獨等二三國に對して遜色あるのみ其他は何れも輻を執りて我が後塵に謁するに過ぎずと唱ふるに至れり余は精確なる事實の材料を手にせざる以上は未だ輕々しく此説に左袒すること能はずと雖も大局上我が鐵道運輸の多額なるは打消す可らざる事實なりとす

る所の貨物を一と見做し今日滯滞し居れる貨物を一と積り前途殖る所の貨物を一とすると今は現在の組織よりも三層倍のものならしめては少なくとも實際の需用に應じ能はざる勘定なり

車輪の増加に至りては殊とに膨脹經濟の需用に應じ得ざるの憾みあり軌條と云ひ機關車と云ひ何れも一定の重量を支へ得るものなれば現在の儘の軌條と機關車とにて數十輛の増加を支へ得べきに非ず則ち一列車に多くの車輛を増すことは困難の事實なりとす去れば一列車に多くの車輛を増すに非ずして列車の數を増し毎日往復の回數を加ふることとなせば如何と云ふに瀛關車こそ別に供ふるなれ軌條に至りては矢張り現在の同一軌條にして増加せる車輛の摩擦を受くることなれば其力潰して支へ得べきに非ず加之ならず前途進行上の危慮もあることとて運發銃を射出すが如くに列車の發送を頻繁ならしむることは出來得可らざるものと知るべし

線路の布設車輛の増加を以て今日の需用に應ずるに足らずとせば之を爲す如何にすべきか只た夫れ廣軌道の制を採用するに在るのみ蓋し廣軌となるに於ては車輛を増加することなくして層倍の貨物を積送し得べきのみならず之を複線となすときは今日に比して四倍の運搬力を有するに由り前段に述べたる三倍

我邦の鐵道中最も大なるものを東海道線路となす此の線路は年來貨物の滯滞奈何ともすべからず毎ねに時間の後れて一般顧客の苦情を耳にする所たり政府遂に此の線路に改良を加へて之を複線となすの議案を提出し議會亦た從て可決せり東海道に次ぎて重要な信越線の如きも運輸の需用に應じ兼ねぬの實況あるを以て車輛増加の議案を提出されしれも又た從て可決せり政府と議會とが今日の實況に於て運輸組織の充分ならざるを認め居れること明らかし

實業の進歩は測る可らずして運輸の増大は確乎たる事實なり之に應ずるの工夫は彼の複線布設と車輛増加との二種の手段にて充分なりやと云ふに余は之に満足し得ざるなり試みに東海道に就て之を云はんは政府既に運輸の滯滞を自認して複線の議案を提出せり則ち今日に比し貳倍の運輸をなし得べき計算なりと雖も此の二倍の運輸にては漸く彼の滯滞せる貨物をして將來に滯滞せしめざるに止まり未だ其他に及ぶ能はざるなり然るに經濟の原則として交通機關發達すれば物貨の產出從て増大なるは常なるに由り複線布設と共に更らに尙ほ一倍の貨物を出すこととならんこの貨物は又たも滯滞の原因となりて他日の累をなすに至らんとす手短かに之を云へば現在運輸す

の貨物を運輸するに於て曾て不足を訴ふることなかるべし

余は今回政府が東海信越諸線の改良案を提出するに當り今更一步を進めて廣軌制採用の英斷に出でざりしを憾む

廣狹軌制の得失

駕籠屋廢れて人力車起り帆船船役に立たずして蒸氣船行はる社會の進歩と共に機關の廣大にして精密なるものが其の微少にして粗雑なるものに代りて勢力を占むべきは當然の數たるにも拘はらず今に至りて廣狹軌道の得失論尙は判然分明の域に達せざるが如きものあるは余の痛歎に堪へざる所なり余は素とより工學家に非ず從て工學上の緻密なる議論は余の嚔を容るゝことを欲せざる所なりと雖も廣軌制の世に行はれてより茲に既に二十有餘年、英佛白蘭獨澳伊丁等歐洲の各大國を始めとし亞弗利加にては埃及及び喜望峯殖民地、亞細亞にては英領印度及び瓜哇、亞米利加にては合衆國及び加奈多の諸國何れも此制を採用し世界普通の標準として流行せるより今更は本位軌道(スタンダード・ゲージ)の名を得る迄に至りしことを考へ一考するに於ては技術上些少の拙議は逸莫れ實地の經驗上勝を制し居れること更に疑ひなかるべし

に在りては車輛の大にして回轉の度數少なきが爲め其の速度從て高く其の最も速かなるものは一時間百哩を走ると云ふ但し此の馳走の程度は傾斜の高低と曲線の大小と其他種々の事情とに由り一概に定め難く殊に我邦の如く險阻の地は多くして平夷の途は少き地勢に於ては廣軌をして充分の効力を奏せしむると能はざるべし先づは平均狹軌に比して五六割を加ふるものと見て可ならん歟

牽引力に於て五六割を増し速力に於て五六割を加ふ二者を合算して豈に狹軌に比し二倍と五六割の運搬力を有するの比例を見るときなる言を換へて之を云へば狹軌にて三百噸を運ぶものとせば廣軌にては同一の時間に其の二倍五割即ち七百五十噸を運び得べし或は狹軌にて二時間半を要するものは同一の重量を一時間にて運り得べき勘定なり則ち余が前段に於て廣軌の制を採用せば車輛を増加するとなくして二層倍の運搬力を増し更に複線を布設するの日は四層倍の運搬力に達すべしと云へる所爲なりと知るべし一度軌道の制を改むるときは忽ちにして運輸の實際に二倍四割の増加を見るに至る縱し改修の費用は頗る大なるものありと之を改むるを要す然るを況んや廣軌に改むるの費用は元來の建設費に加ふること三割以内にて足るべく若し始めより廣軌を布設す

余の二月三日始めて衆議院に演説せる頃は廣軌道の釋義を承知せる人さへも尙は寥々たるの形勢なりしが居ること一ヶ月にして今更其の所謂廣軌道(ブロードゲージ)四呎八吋半にして其の所謂狹軌道(ナローゲージ)は三呎六吋のものを指す等の大体は普通に知れ渡る所となれり從て余は茲に管々しき説をなすを要せずと雖も亦た多少の辯解を煩はしたく思ふ廉々のなきにしも非ず

廣軌の道幅には分明なる定限ありと雖も其の軌條は必ずしも一定の長短と重量とあるに非らず或は狹軌道に用ゆるものよりも小にして輕きものなしとせず然れども概して狹軌のものよりは長くして且つ強きを以て過例とし其の重量は凡そ九十磅(狹軌條概ね六十五磅)とす斯くて車輛を支ふるの軌條強きが上に車輛其者も高くして且大なり列車に附せる機關車一輛の重量は十四噸(狹軌にては十二三噸)にして一車に四輛を連絡せり(狹軌にては三輛)則ち同數の車輛にして狹軌よりも五六割多量の牽引力を有するを見て差支なかるべし

右は廣軌が狹軌に對してより多くの重量を運び得ることを説明したるまでなれども轉じて其速力如何と觀察するときは齊しく優れるものあるなり蓋し廣軌用せざる可らず

廣軌の論世に出で、より天下翕然として之に和し工學上の智識あるとなきとに論なく雷同附加廣軌に就くの運からざらんことを是れ競ふの勢あり從て彼の建設費及び營業費等の點に關し廣軌の極めて低廉なるを説く者日一日より多し然れども工學上の事は門外漢なる余の如きものは説者の言を聽くに於ても頗る警戒を要せずんばあらず是を以て彼の牽引力速力等器械的の判斷に至りては概ね之を信用して掲げたりと雖も他の建設費の如き營業費の如きは天時と地利との事情に變動あるが爲め忽ちにして其の比例に狂ひを生ずるのみならず建築運輸の吏員其人の手心一つにて大差あることなれば他日廣軌制採用の後ち費用の實際將た如何あるべきや之を今日に放言するは余の危む所なるに由り本文建設費云々の如きも余の確信を表せりと云ふに非ず其の營業費の如きは廣軌の爲め種々の説を爲す者ありと雖も一切之を省くことなせり蓋し廣軌制採用の本旨は採用後効力の非常なる

に在りては必ずしも改善の際費額の多少を争ふに非ざるを以てなり

膨脹的日本と廣軌鉄道

廣狹軌制の簡單なる比較論を以てして廣軌制の採用すべきこと充分明瞭なれども更らに今日以後所謂膨脹的日本の國是を遂行するに當りては是非廣軌制の必要なるを觀る其の理由二三を左に開示して論者の猛省を促さんと欲す

鉄道は實用的の機關なれば之が乗客は坐席の隙を容るゝに足るれば可なり辨當飯の腹を慰するに足るれば可なりと云ふ者もあれど吾人が居家的衣食住の便利は次第に其の程度を高め來れる今日に在りて鉄道旅行もあれは態々窮屈に我慢せざる可らずと云ふの理なし現に横濱神戸間乃至神戸廣島間の如きは瀕車中の窮屈不便利を厭ふて時を急がぬ上等客は殊更ら瀕船に乗る者少なからず之を歐米諸國に於て瀕車中の坐席打寛ろき居りて喫煙室煖温器の備へ充分なるのみならず沐浴理髮の些事に至るまで夫れく室を別にし人を備へて乗客の求めを待つものに比して人生の幸不幸快不快は如何計りの相違なりとする手僅かに軌道の制を變ずるのみにして此の相違を除き去らるゝとせば廣軌の制を採用するに若かず人生

を見るが如きの氣樂なる戰爭に在りては輸送の迅速も左迄意に介するに足らざるかなれども他日有事の場合に於て之を奈何せんとするぞ且つ夫れ軍隊の輸送は然かく遅緩なりと雖も此の輸送を爲すが爲め一般の乗客と荷物とは屢々其の積込みを謝絶せられ日本東海山陽に線路沿道の地方人民は頻りに歎嗟の聲を放てるに非ずや過ちは一度すべし再たびす可からざるなり

廣軌道の軍事國防と大關係あると如此し去れば近日世上に喧しき軍備擴張緩急論の如きも廣軌制の採用を決せば議論の局面を一變し得らるべきなり蓋し此の緩急論なるもの決して一種の論調に非ず根本よりして國力の負擔に堪へざる擴張を非とする者あり海軍の擴張少にして陸軍の大なるを難する者あり其他海軍内にも大艦を製すべしと言ひ小艦を造るべしと云ひ陸軍内にも師團旅團各々小異を争ひ紛々として決する所を知らず余は此等の論争を彼是批評する者に非ざれども試に論者にして若し廣軌制の採用に由り一師團半の兵を七日間にして東京廣島間に轉送し得らるべく又た水雷艇の如きは一日を出でずして直江津より東京或は横須賀灣より大坂海に運送し警報傳ふる處に千里急を防ぐことを得らる

の進歩は當だに實用的のみに止まらず少しは愉快と不愉快との感覺を持ちたきことぞかし但し實用以上の談柄は今日の日本に尙ほ早しとの説あらん手余は一步を譲りて實用上の一注意を與ふべし現在の鐵道運輸を察するに何れの線路に在りても乗客は割合に多くして貨物は割合に少なし是れ一つには我が邦人の實業的思想未だ發達せず商業上の鐵道を利用するの考へなく徒らに遊山物見の旅行をなす者あるに由ると云はんかなれども主なる原因は前段に述べたるが如く狹軌道の軌條と機關車とが力足らざるより夥多の貨車を支へ得ざるに在り則ち貨物なきに非ず貨物を運はざるなり從て運輸の遅緩と貨物の滯滞とを來たすこと實に我が經濟界の遺憾に堪へざる所なりとす之を英佛獨魯諸國の運輸表には貨物の割合乗客よりは幾層倍なるものに比するときは余は膨脹的日本の國是に應せんが爲め斷つて彼れを捨て此れを取らざる可らざるを見る也

平時産業上の利害尙ほ忍ぶべしとするも戰時軍事上の得失に鑑みるときは益々廣軌道の必須なるを知り得らるべし現に日清の役に於ける軍隊輸送の程度は一師團の兵を東京より廣島まで凡そ十日間に運りたる割合なりしと聞く日清の役の如き恰かも演習

膨脹的日本と廣軌鉄道 (續)

利害の説、得失の論、最早分明なる以上は宜しく速に狹軌道を改めて廣軌制を採るの方針を決すべきなり抑も我邦の鐵道は從來狹軌の制なりしとは雖も是れ曾て兩軌道の制を比較したる上に一定の規則を設けたるに非ず鐵道創始の際は今より二十五六年前に在り當時尙ほ鐵道の智識充分ならず焉んぞ能く軌道の利害得失を判斷するを望まん哉否な當時(一千八百七十年頃)に於ては歐米諸國と雖も斯かる研究には迂濶なりしことなれば固より之を我邦の創業者に期し難かりしなり然れども爾來幾多の星霜を経ると共に學理界と實地界とは著るしき變化を生じ來りて今は學理界に於て得失の比較一定され實地界に於て本位軌道の流行とまで進み行けることなれば今まは何をか躊躇ふべき直ちに進んで廣軌の制を採用すべきなり

廣軌道の利害に就きては世論概ね不同意なきが如し
と雖も我邦に於て二十餘年來行はれ居れる狭軌道
を一朝に變更すること一考すべき問題なりと云ふ者
なきに非ず從來在せる制度を變更すること固とよ
り鄭重の考慮を費さざる可らずと雖も只管變更を思
みて逡巡するときは到底思切りたる改換をなし得ざ
るべし試に思へ明治十六年日本鐵道會社の發起され
たる際は軌道變更の好時機たりしなり而して之れを
逸したり明治十九年中山道線路の東海道に移され
る時は最も好機會たりしなり而して亦た之れを失へ
り降て明治二十一年の私設鐵道條例發布に明治二十
五年の鐵道布設法施行に機會は屢々與へられしにも
拘はらず當局者は看すし之を遁したるに非ずや今
日の好機を又たも逸し去らしむるときは眞の改善は
果して何れの日に成就すべしとする手余の解し得ざ
る所なりとす

論者は我が鐵道を稱して二十年來の存在と云へり然
れども事實は如何、二十年來の鐵道は只だ惟だ官線
而かも官線中の京濱乃至京坂間位に止まり東海其
他の官線及び私設鐵道の如き何れも十年以内多くは
五六年の生命あるのみ之を今日に改善するに於て大
なる支障あるを見ざるなり僅かに十年以内の生命あ
る所なりとす

不明と失策とを諷刺したるに非ずや然るに僅々數年
の後に必ずや混雜あらん恐慌あらんを期せられ居る
にも拘はらず故らに改善の時機を失して悔を他日に
貽すこと余は其の謂はれあるを知らざるなり
夫れ山陽鐵道會社は一私設會社なり尙ほ能く天下に
率先して廣軌の論を唱道し奮たに自家の線路を改善
するのみならず進んで政府の線路までも改善する
の任に當らんと云へり其の説く所稍や急激に走るの
嫌なきに非ざるも抱負する所は頗る大なるものあり
知らず我政府當局者と貴衆兩院議員諸氏とは一私設
會社たる山陽社員に對して愧色なきを得るや否や
以上廣軌制の必要なるを今日は採用の時機を論ず
るに止まり採用するに付き實施の方法は如何と云
ふことには未だ論及せず余に於て意見の善ふるも
のなきに非ずと雖も建議案の通過尙ほ未定中の今
日に於て之を吐露すること時機尙ほ早きやの感あ
るを以て稿を茲に止む院議の決する一兩日を出で
ず期に及んで更らに本稿を續くの必要生ずること
あるべきなり (完)

る鐵道にてさへ之が改善を彼是れと若情言ふべしと
せば今後尙ほ十年十五年を經過せるの後に果して能
く巨多の支障を排して斷行し得らるべき哉之を要す
るに論者の言は必竟徒らに保守舊守の見を粧ふに著
實鄭重の形を以てするに過ぎず況んや今年は官線中
の最大線路なる東海線は線工事の起業あり之に次
きての大線路たる中央線は新たに工事を始められん
とし奥羽北陸其他の第一期線は竣工年限を短縮せら
れ第二期線の線路は新たに第一期線に繰上げられ爲
めに六千餘萬圓の起工費を増加したるに非ずや之に
加ふるに全國私設會社の設立額は累々として春草の
發生するに異ならず此の鐵道世界の大過渡に際し斷
行の機を失するをせば吾人明治二十九年度の人間は
後世子孫に對して能く申譯をなすの辭はなかるべし
好し一時の姑息論勝を制し改善の事を本年度に斷行
せずとせん乎以上の官私線路は一齋に狹軌の制に由
りて起工するべしと雖も世界文明の風潮と軍國多事
の形勢とは到底永く狹軌の制を維持せしむべきに非
ず數年を出でずして必ずや廣軌道に變更するに至ら
んとす其際に於ける官民上下の混雜と經濟世界の恐
慌とは將た如何あるべきや一の中山道鐵道が東海道
に移されたる時に於てさへ世人は口を極めて政府の

軌道論に就て (其二)

在京市島謙吉

左に掲ぐるものは去六日の東北日報に記せる信夫
博平氏の軌道論に就て市島代議士の批評したるも
のを筆記せしなり
他山の石以て玉を攻ぐべしと云へり余の初めて廣軌
論を議會に唱へてより茲に五句を經過したるに世上
幾多の贊成論あるを聞くも未だ斷乎として狹軌論を
主張する者あるを知らず窃かに以て遺憾とせり
信夫氏の論說洵とに鄭重着實の文字にして余の敬服
する所なりと雖も氏も亦た純然たる狹軌論者たるに
は非ざるが如し否な理論上に於ては氏も矢張り純然
たる廣軌論者たるは其の文中「軌道の幅員に關する
問題は歐米諸國に於ては既に陳腐に屬す」と云ひ又
「鐵道の在り中に於て最大要素たる速力と運搬力と
の二者に著るべき利益を收め得べし」と廣軌制を賞
揚せるにても明白なり
氏は身親ら廣軌論者なるも其の公平なる研究に資せ
んが爲め試みに身を反對者の地位に置き廣軌の劣所
を指摘せんと試みたり
第一 地勢上山嶽多く傾斜急なるを以て曲線の半徑
大なるを得ずとのとは廣軌反對論者の往々之を口

にする所にして聞く所によれば其の初め我邦の狭軌制を採りたるも某外顧問技師が山嶽傾斜云々を主張して當局者に勸告せる所あるに由ると云へり山嶽傾斜の爲め不便を感ずるは實に曲線の點に於てのみならず勾配の點に於ても亦た然り廣軌道となすに付きては多少の厄介を見るは固よりなりと雖も余が其道の人の説く所として申にせる所にては我邦に於ては法律上狹軌の制を明示せるに拘らず實際に於て官府の設計なり民間の會社に命令せる所の指定なりによれば曲線の半徑勾配の程度其他土工の規定等凡べて廣軌道に則りあるが故に既設の線路を改修するとしても又たは新設の工事に取掛るとしても廣軌の爲め線路の位置等に關し甚だしき不都合を見ることなし是れ此の規定たる實は過失に相違なしと雖も今回如く軌道變更を實施するには好都合の過失なり即ち怪我の功名とは此事なり云々と聞く技術上のことは素人たる余の斷言を憚る所なれども是又一考すべきことならん歟

但し右は眞の偶然的事實なれば採りて以て議論の

材料とするに充分ならざれども現に信夫氏が稱して平垣線となす所の東海道筋に於ても足柄山筋の如きは曲線と云ひ勾配と云ひ蓋し工事の容易ならざるものあるにも拘はらず當局の見込は愈よ改制の際に容赦なく實行する都合なりと云ふ又た日本の山嶽が如何に傾斜甚だしければとて富士山に向て布設するにも非ず成るべく隘谷を採し當ては行くことなれば左程心配するにも及ばざるべし亞米利加には落機山にさへ廣軌鐵道が掛けられるに非ずや

第二 建設費の増加を二割五分と見積られたるは素人たる余に於て彼是と争ふに及ばず好し二割五分とせん乎今後四千五百萬圓の金額を餘計に支出せざる可らずとて心配されるれども余が前段に述べたる如く金額の呼聲のみを聽きて驚くには足らざるべし二割五分増の四千五百萬圓より少額に非ざれども之に對する建設費の本体は幾何なり哉正さに一億八千萬圓と云ふの巨額ならん二億に近き費用を投下(而かも二三十年の歳月を期して)日本國の運輸組織を完全ならしむる大仕事を怡むる場合に於て何ぞ又た四千萬圓餘りの金額に躊躇するに及ぶべきや四千萬

圓を以て二億圓に比較對照することゝなすは絶対的に其の呼聲を以て巨額の吹聴をなすは非なり恰かも國庫の収支を議するが如し昨年迄八千萬の歳計たりし時には八百萬圓の地租を輕減するに否とが天下の一大問題たりしに拘はらず一億數千萬の歳計を見るの今年度となりては千萬二千萬の費額は収入案とも云はず支出案とも云はず存外平易に通過する一般なり(余は議會の議事速決の傾きあるを可認する者に非ず只だ人心の風潮と議論の本位どが年所と共に變遷推移するの状を示すのみ讀者誤解すること勿れ)

信夫氏は四千五百萬圓を廣軌の爲め周りに給するの事をなさずんば之を以て七百五十哩の狹軌鐵道を布設され得るものとて慨歎されるれども立論の仕方少しく穩當ならざるに似たり氏の説の如くんば日本全國(向ふ二三十年間に涉りて)に於て鐵道に費すべき金額は貳億貳千五百萬圓(壹億八千萬圓と四千五百萬圓とを合し)の外には一文もなきが故に此の中より節約すれば餘計の哩數を延長すべく節約出來ざるも事は實際は決して去る窮屈なるものに非ざるべし愈よ三千哩の鐵道を布設するにとなり之に向て二億餘萬の資本を投ずるとなる(而かも二三十年間に涉りて)以上は更に入用なる七百五十哩の爲め四千五百萬圓より又たは之に二割五分増しを加へたる五千六百二十五萬圓なりは響の聲に應ずるが如く募集さるゝならん(而かも二三十年間に募集するに於てを)若し又た一朝經濟界に恐慌を來して鐵道事業火の消へたるが如くなる場合には餘分の七百五十哩どころか肝腎の三千哩建設さへも運び難かるべし

要するに四千五百萬圓の借しむべきや否や其時其處の經濟事情に存することにして必ずしも廣狹軌論と關係するものに非ず

第二 營業費の廣軌に由りて減少することは前段之を述べたり

又た需用供給の理は固より需用先だちて供給之に次ぐが習ひなれども鐵道の如き交通機關の増加は需用供給雙方に向て刺激劑となるものなれば廣軌制の採用は概ね地方の實業的進歩を速成せしむるの好結果あるべしと思はる

且つ運輸の程度極めて低く到底普通の鐵道を要せずと認むるに於ては廣軌道は廣軌道として一時假りに輕量の軌條輕量の機關車を用ひ其の運輸程度の高まりに従ひ漸次重量のものに變換するも可なり

第四 信夫氏は軌道の畫一を主張されるれども此事は廣狹軌論と必ずしも相關係するものに非ず狹軌にして畫一なるが如く廣軌にして畫一なることを得べし蓋しは狹軌に限ると謂ふべきに非ざるなり但し余は畫一制度其者に關しては却て信夫氏の如く究屈に考へ居る者に非ず他日世に公にすることあるべし

以上研究の結果は四種の反對説は大に恐るゝに足らざるものゝ如し況んや氏自らも亦た(第一)の終りに「我邦の地勢は既成線路の改造は兎に角、將來の鐵道工事をば寧ろ狹軌道に易からしむ」(第二)の終りに「經濟家たる者須らく一考するを要す」(第三)の終りに「廣狹軌道の得失は營業費の點に於て深く究むる所なくんばならず」(第四)の終りに「暫く狹軌道を以て満足するも亦た餘儀なき次第と謂ふべき歟」と言へる所を以て見れば斷乎として軌道制度變更の議に反對せるに非ざること明らかし既に廣軌に反對するに非ずまればとて全然之に賛成するものにてなし氏は果して如何なる邊に安心立命の地を求めんとする乎

して狹軌を容れしむべしと云へり氏の説く所にては佐分利工學士も此説ありとのとなれども余は未だ佐分利氏より聽取せず只だ去月中なりしか或る會合の席上に於て「某工學博士が東海道線路を今日營業中の儘に改造するの議をなすが爲め如此きの説を提出したる處一考して名案なるが如きも隧道橋梁等の工事に至りて究する所あり廢案に歸したる」由を耳に挿みたるとあるのみ歐米諸國にても未だ實例のなきことと思はれ素人たる余に於て充分の批評を試むるの餘裕なし他日誰人にあれ此の方案を仔細に説明さるゝ人出でたるの後に譲るとも尙ほ遲しとせざるべし

獨り惜しむ信夫氏が該方案を採用するの理由として二種の意見を掲げたる其の第一には三千哩建設費の四割増し(七千二百萬圓)は意に介するに足らずと云ひ乍ら其第二には車輛廢物に歸するの費用(五百五十萬圓)こそ吝むに堪へたりと主張されしことを然れども氏は狹軌論者なりと云ふに非ず廣軌論に疑を抱くと云ふに止まるのみ余は熱心攻究すること氏の如き同人と共に治ぬく此の重要な問題を議せんことを望むに切なり

(完了)

再び廣軌鐵道を論ず

(一) 市嶋 謙吉

政府委員の意見

余の曩きに本論に關するの筆を擱きてより茲に早く半月を経たり其間院外の輿論は一齊に舊同を表するのみ絶へて反對の色を顯はすことなく又衆議院内の委員會は一人の不同意者もなく徹頭徹尾全會一致を以て可決するに至れり斯る事實は議會の先例に於て稀れに見る所なれば廣軌論の大勢力あるや知るべきなり

獨り惜しむ政府委員諸氏の本論に對する意見兎角に充分の決心と熱情とを表明するもの少なく此の輿論の一致せる問題に關して可否の明答を與ふることなきは何ぞや

政府委員は曰く理論上必ずしも廣軌を是なりと云ひ難し

是れ二月三日の議場以來屢々當局者より聞く所なれども若し政府にして左迄廣軌を賛成せざるなれば一步を進みて廣軌は非なり則ち狹軌は是なりと斷言するの勇ありやと云ふに未だ曾て斯る斷言をなしたることなし音だに之れなきのみならず當局

内にも多くの技師は絶對的に廣軌に反對なしとまで明言せるを以て見れば政府部内の意嚮も大概は卜知すべきなり余は政府委員が言論の責任を重んずるに過ぎて折角の好機會を逸するの失策に陥るの恐れなきやを危ぶむ

曰く軌道に本位なし實際に行はるゝ所の軌道より其の國々に於ける本位軌道なり日本にては從來狹軌が行はれ居れば狹軌を以て日本の本位と云て可なり立論の根據を異にする以上は徒らに本位の字義に拘泥して書生論を闘はすことは余の欲せざる所なれども政府は徒らに日本國鐵道布設の歴史を叙して狹軌の採用され居る事實を述べ立つるに止まり之を採用したるは我邦の國是として適當の判斷なりし否な今日に於ても變更すべからざるの制度なりと主張することなし只だ惟だ可否得失に拘はらば行はれ居る者は本位なりと云ふに過ぎず斯る本位は本位として幾干の價值だもあることなしと思ふ

曰く我邦の鐵道界に於て今日迄廣軌論の顯はれたることなし政府が之に注意せざりしも亦た怪しむに足らざるべし

學識あり信用あるの技術家は概ね政府に綱維さるるの今日に於ては政府以外に廣軌論なかりしに當り谷子爵より堂々廣軌論を主張せることは天下の共に認むる所にして政府が之を知らずと云ふことを得ざるべし

曰く東海線の貨物溢滞よりして複線布設の考へを起し此考への熟すると共に若し此復線落成後又も貨物の溢滞することなかるべきやと思ひ付き茲に廣軌の調査を必用と認むるに至れり

是れ余の曩きに議場に於て又た紙上に於て論じたる所と暗合せる議論なり則ち狹軌の線は今日溢滞せる所の貨物を疎通し得べきも運輸の改善に促されて生ずべき所の未來の貨物溢滞には應ト難しとの趣旨にして此の大悟一たび開くる以上は一轉して廣軌の必用明白なるに至るべき筈なり

曰く廣軌の調査を必用と感ずるに至りたれども未だ調査に着手せるに非ず是れよりして調査するなれば技術上にては如何なる廉を又た經濟上にては如何なる點を調査したら宜しからんと其邊の考へを廻らし居ることにして則ち廣軌論調査に關する調査をなし居ると云ふも可なり

政府の言として如何にも着實に重なるが如しと雖

方あるも能く鐵道制度を可とするの勇に乏しが故に動もすれば制度の改善は我々の隙を容れ罷はざる所なりと辯疏さるを見る

陸軍委員として偏へに自家の都合のみを計らざる謙遜の美德は余の感服に堪へざる所なれども苟くも國事を大局上より打算するの職責を有する者に在りては彼れの美德に慣れて其の懷抱する所を察するの雅量なくしては不可なり彼れ委員は曰く鐵道其者は今日の鐵道あれば今日の儘にても輸送の出來は云ふことなれども若し改良さるることなれば尙更ら便利なりと然り改良出來ぬと極まれれば止むを得ずして如何なる不便をも忍ばざる可らず極端に之を言へば鐵道線路は今日現在のものより一線も増加せずと極まれれば矢張り其れにても満足せざるを得ず尙は一層極端に之を云へば現に朝鮮國及び滿州一帯の地方に於ては一切鐵道なきの山河を跋渉せしむる爲め三十萬の武夫を動かす且つ現に攻城野戰の功を全ふしたる一昨年來の實例もあり鐵道なしとて軍は出來得ると云ふべきが如くなれども苟くも國家の大局に注目する者にありては斯る奇激の言に耳を傾け其れにて充分なりと思惟する者はなかるべし況んや今後起るべき我邦の外戰は決して清韓人種の如き與みし易き者を相手とするに非ざるに於てをや軍備に關

も或は季文子の三省に歎することなき乎恐らくは弘夫子の笑ふ所となるに至らん

軍事上經濟上の關係

委員會に於て政府委員就中逓信省所管政府委員の言は如此く冷淡なり余輩より見れば同省こそ鐵道に關する諸般の問題に付きては充分の研究をなし居れることなるべしと思考さるるにも拘はらず答辯の出る所然かく未熟なるは果して如何なる理由あるに據る乎洵とに解し難き次第なりと雖も之を追究するも詮なきことなれば更らに委員會に於ける陸軍省所管及び大藏省所管政府委員の所説に就きて觀察する所あらんとす

軍事上に付きては廣軌の必用なること素人たる余等の同志に於ても屢々唱道せる所なりしが其筋の人のして公然答辯さるる所を見るも軍隊及兵器の輸送上廣軌の便利なるは夙とに認め居たることにして殊と一昨年來日清の役に實驗したる事實に徴するも軌道の狹きが爲め一かならざる不便を感たりと云へり只だ夫れ陸軍委員は能く軍事上の説明をなすの

する直接間接の機關は充分の措置を要すること勿論の次第なり

經濟上の關係に付き大藏委員の説明は余輩偏へに其不親切なるを惜まざるはあらす委員は廣軌制採用に付きて必用なる費額の幾干なるやを知らずと明言せり其の幾干なるやを知らざれどもとにかく今日の國庫は之が支出を許さずのことなれども如此き流儀の説明は恐らく識者の満足を買ひ難からん凡そ資金は天より降り降らず地より湧かず何れ國民の懷裡より徴收すべきものなるに於ては支出を困難なりと斷ずれば如何なる費途にても困難ならざるものなし要は只だ費途の果して今日に必用なるや否やを究め果して必用なるに於ては困難の中より支出の都合を計るに在るのみ若し然らずして費途の如何を究むることなく支出困難の口實を以て拒絶したらんには天下途に一事の擧ぐべきものなきに至らん

且つ夫れ委員は本年度に於て歲計國債の増加せる其の金額の容易ならざる統計表を掲げて縷々説明する所ありと雖も當期議會が二億萬圓に近きの歲計を協賛すべく召集せられ九十の會期之を協賛したるの事實は今更ら事新らしく言ふ迄もなし而して大藏大臣

其人は曩きに議場に明言して此の多額なる歳計を議決するとも國家の經濟上憂ふるに足ることなしと演説せるに非ずや政府が自ら提出する所の方案に要するものは一年二億萬に上るとも國家の經濟に影響することなく議員よりして提議するものは數年に涉りて二三千萬の支出をなすも堪へ難き所なりと云ふは余輩の解し得ざる所なり況んや政府が提出せる費途の内にては彼の電話擴張と勸業銀行との如きは戰後經營事業として決して廣軌鐵道に優るものと云ふ可らず而るも尙ほ之に向て二三千萬の大額を可決したるに非ずや余輩議員は政府の提案せる多額の費途を議決するの際には國家の經濟に關係なしとして協賛を求められ既に政府案を通過せしめたるの後は自ら提出せる少額の費途も堪へ難しとして拒絶せらるる余輩は政府の爲めに賣られたるに非ざるやを疑ふ者なり

實施方案の必用

前二回の紙上に於て余の紹介したる如く政府委員の答辭は靴を隔てて痒きを掻くが如き思ひせらるるも雖も未だ一人として廣軌道を非なりと斷言せる者なし

の議事に上りたるは漸く本月七日に在り爾來委員會となりても亦た種々の障礙に罹り彼是と時日遷延し最初提案の其日より殆んど四十日を費消するに及べり
若し本年度の議會に於て政府余輩の提案を容れ廣軌制採用の實施方案を示すこととなりたらんには好し其の方案の不幸議決を見ざるにありとも此の問題に對する世論の安心を買ふに至れるならんに今や次期の議會迄は又も二十餘句の日子を問するが故に當局者の實施方案を問はんとするに正當の手續を盡くすべきの機關なし廣軌の論は輿論となり了はれる今日に於ては世人只管其の實施方案を知らんことをのみ渴望せるの際に於て忽焉として當局者に質問するの方便を失ふに至りたること余等同志の残念とする所なり局に當る者は迷ふと云へる古訓もあれば局外者たる余輩論客が之を刺戟して改訂の方針を執らしむること洵と已むを得ずと雖も事業の實施方案は必らずや當局者の提案を待たざるを得ず何となれば材料の審査と計畫の工夫とは日夜其事を執れる者に非ずんば能くす可らざればなり是を以て余は自家の私見を蓄ふるあるに拘はらず之を發表するの時機に

我邦に於て狹軌制を維持するの必用ありと主張せる者なし
他日改善を行ふに於ては大恐慌を起すべしと云ふの說に對し反駁せる者なし
即ち我が日本の鐵道は之を廣軌制に改むるの必用ありのみならず時機も亦た今日に在ることは冥々裡に納得せるに外ならず

全會一致を以て委員會を通過せるの建議案は更に大多數を以て衆議院をも通過せり國民一般の希望は表明せられて餘りありといふべし
豫ねては貴族院に於ても同様の建議案を提出するの議あり某議員の如きは現に余等同志に向て其の計畫を明言されたれども進取の問題には兎角逡巡勝ちなる同院のことで種々の事情は遂に本期議會に提出の運びをなさしめざりしと惜むべきの極みにぞある
且つ夫れ衆議院の如きも建議案としては首尾能く通過せりと雖も會期切迫の未となりたれば政府をして建議に對するの意向を發表せしむるに至らず徒らに國民の失望を表明するのみに止まらしめたるは吳々も遺憾の次第なり元來余等の提案は二月十五日に在りしが當日は彼の停會の不幸に遭ひ空しく一句を経過しつ二十五日に至り提案の報告を受けたれども其

非ざるを感ず曩日の紙上に其旨を斷はり置きたりしが數回の委員會に於て遂に政府當局者の方案を窺ひ得ざるのみならず向ふ二十餘句の間に之を窺ふの方便なしとせば余は自ら揣らす管見を吐露して大方に訴ふるの必用を感ずるに及べり蓋し世上幾多の廣軌論者が今日に於て虎穴に入り乍ら虎子を獲ざるが如きの思ひをなすは一に實施方案を提出する者なきに由る此際在りては命令極速に失するの譏りあると尚くも一種の提案を具すること世の歡迎する所となるや必せり徒らに巧運を極めて悠々時機を逸すべきに非ざるなり去れば余の將に發表せんとする提案が當局者に質すの間暇なき爲め幾多の粗漏と瑕瑾とを有するも亦た自然の數なるのみ

四種の實施方案

廣軌論の流行や日猶ほ淺きが故に其の實施方案を提出せる者誠とに指を屈するに足らずと雖も早く既に其間四種の類別あるを見る
甲論者 (急而激) 乙論者 (急而穩)
丙論者 (漸而激) 丁論者 (漸而穩)
甲論者は我邦に廣軌を採用するの時機一日を緩ふす可らざるを主張するは勿論其の實施は沿ねく全國に

渉る津々浦々に布設したる又た布設さるべき總べての鉄道線路をば一齊に廣軌となさんとせり
乙論者は悠々の間に時機を逸す可らざることは甲論者と同一けれども一齊に全國の鐵道をして廣軌ならしめんことは頗ぶる過激の處置なるに由り廣軌たるべき線路と廣軌を要せざるの線路とを區別して其廣軌たるべきものには速に着手せざる可らずとせり
丙論者は今日の時機容易に廣軌の實行さるべきを疑ふと雖も其廣軌制に熱心なるは甲乙論者に譲らざるのみならず寧ろ乙論者よりも信すること深きを以て時機は漸なりとも實施は洽ねからざる可からずとせり
丁論者は實施の今日に急にすべからざるを見るのみならず其實施の程度も勉めて人心に障らば物議を生ぜざらんとを主眼とせり
以上四種の論者中に就きて試みに余の見る所を陳述せんに
丁論者は概ね當局の吏員より成立し必ずしも實施方案の如何を研究せるにあらず只だ何となく世上の異議を招かざらんことを專一とせり其の説く所温和着實の觀ありと雖も新規の事物を採用するの際に當

り斯る八方美人主義にては、寧ろ廣軌論實行の期なかるべし
甲論者は最も壯快なる所説を吐露して人耳を聳かすものあり革新の際に氣焔を揚げんには頗ぶる面白きことには相違なけれども彼等は未だ線路を講究せるに非ざるなり未だ經濟を審査せるに非ざるなり偏へに廣狹軌制の比較論を馳せて甲の優りて乙の劣れるを信するの餘り快刀一揮以て亂麻を斷たんとせり恐らくは世の着實なる論者をして満足せしむること能はざらん
丙論者中に陸軍委員其人を加ふることは余の本意に非ざれども委員が口にする所丈にては稍や本論者の口吻に類するを覺しむ則ち委員は其の希望する所廣軌の速成に在り只だ實行の急果して出來得るや否やに就て多少の疑念を抱かるゝが如きも愈よ廣軌とする以上は全國の鐵道をして殆んど皆な廣軌たらしむるの必用あるべしと云へり余は時機の緩ふす可らざるは百難を排しても決行すべき必用ありと信するが故に本論者に向て時機の點に關し疑念を抱かざらんことを忠告するなり而かも其の廣軌制の實施必らずや全國に洽ねからざる可らずとするの説には

未だ首肯すること能はざるなり
乙論者の中堅として報知時事新報に屢々紹介されたるは某の工學家なり其の説く所にては本土と九州との内にて某々の八九線路を廣軌となし其他の線路及び四國台灣北海道は狹軌となし置くべしと云へり余は工學家の説たる裡面は如何なる考慮あるやを知らざれども表面にては只管經濟の都合に懸念なし鐵道關係者の物議を遠慮せるに似たるの憾みなしとせず

第一 東西兩京を通ずる目下の惟一線路として國家非常の際に備ふるの必用あるのみならず兵事上輸送の不便を一昨年の役に於て實驗したる所なり
第二 橫濱國府津沼津靜岡濱松豊橋名古屋岐阜大垣彦根大津京都大坂等全國中に屈指の都會を連絡するが故に平日と雖も人間の往來貨物の運輸引も切らず既に近來は貨物滯留時間遅延等の苦情頗りなるを以て軌道改良の必用を見る
第三 本線路に關しては民間論者中之を廣軌とするに一人の異議者なきのみならず遞信省委員の答辭に由るも東海道線は寧ろ四呎八吋半(即ち所謂廣軌)よりも尙は一層廣き軌道を用ゆべしと論ずる者當局技師中に在りと云ふ

詮する所余は大体に於て乙論者の一人たり然れども余は尙も容れられんが爲めに若干の金額以下に於て又た關係者の異議を招かざるの範圍内に於て議論するの陋を學ぶこと能はず次第より漸次實際上の研究に移り結果を歸納して茲に始めて乙論者たるの面目を全ふせんことを期す
本土縦貫の三大幹線

東海道線の廣軌ならざる可らざること明々白々たり只だ夫れ今日の狹軌單線を改めて廣軌單線となすのみならず更に進で廣軌複線となすに就ては多少の議論なきに非ざれども全國無比の大幹線たる本線路丈には萬障を凌ぎても此の過渡の時を機として廣軌複線となすべき也
東海道線中の支線とも云ふべき大府武藏間及び米原致賀間の二線路中大府武藏間の如きは元と中山道鐵

東海道線

に下すあらんとす此の線路こそ言ふ迄もなく廣軌道となさざる可からざるものなれ其の理由は

既納の結果を得るの主義に由り余は國中の線路に就き其の重なるものを觀察せんとするに當り先づ事を

道布設工事の爲め材料運輸の鐵道として布設されたものにして今は殆んど難助の感なしとせざれども之を存する以上には矢張り廣軌道として維持せざる可らず而して米原敦賀間に至りては北陸の咽喉を扼して軍事上の大必用線たり無論廣軌たるべきものとす

東海道線と聯線する所の

日本鐵道線

山陽鐵道線

の二者は東海道線と相須ちて全國の縱貫大幹線を組成するものなれば是又た其廣軌に改造さるべきや言

を待たず就中山陽線の如きは今日に於て軌道の狭くして運輸の滯滞せるが爲め毎日に涼船海運に後れを取るの形勢あり人馬の往來こそ涼車に由るもの多けれども貨物は概ね瀧船に由りて運送さるゝの實況を現つゝあり山陽會社が先頃官線拂下廣軌改築を唱へて天下を震動せしめたるが如き世上往々虚喝の大言と認めて意に介せざるに似たりと雖も余の知る言を以てせば同會社が今日に於て運輸組織の改善を計る亦た已むを得ざる理由あるに出づ
日本鐵道に至りては運輸の實況稍や劣れるものあり

遽かに廣軌たるを要せずと云ふ者あらんも知らずと雖も東北の形勝を擁して關東の中更に臨む此の大幹線にして革新進取の一段に至り山陽鐵道に後れて可也との理由なかるべし
之を要するに本土を縱貫せる現在三大線路は言ふ迄もなく廣軌道たるべき也

縱貫線以外の本土線路

本土を縱貫せる日本東海山陽の三大幹線が廣軌たるべきの理由は前述の如し之に次ぎて日本線の仙臺以北に併行せる

奥羽線 (工事中)

東海線の名古屋以東に併行せる

甲武線 (既設) 中央線 (未成)

此の中央線一帯に併行せる

北陸線 (工事中)

東海線の名古屋以西に併行せる

關西線 (既設)

山陽線の全部に併行せる

山陰線 (未成)

及び以上の線路を横斷せる

兩毛線 (既設) 信越線 (既設)

等都合八線路の如きは其の既設なると工事中なると將た未成なるとに論なく何れも本土の廣大なる地方を貫通し人民を聯絡して距離延長せる幹線たることなれば軍事上よりするも貨殖上よりするも之を廣軌道となすの必要あり世上の所謂の激派は勿論穩派論者と雖も此點に於て不同意を唱ふる者はなからん之に次ぎて總武線北越線北信線岩淵線參宮線大坂線京畿線播但線中國線兩山線の如き何れも有名なる線路にして運輸の程度亦た頗る高度なるべければ之を廣軌となして可なり只だ夫れ此等諸線路に至りては其の延長せる所概ね本土の邊隅に涉りて其の中央を貫くに非ざるに由り之を廣軌となすに及ばずと云ふ者なしとせざるべし尙ほ此等線路より下りて短距離の小線路に至りては利害の論も亦た一層紛々たることと思はる

に非ず軍事上の爲めには
今回勅令第二十四號を以て發布されたる陸軍管區表中聯隊區司令部設置地方を連絡するの線路及び海軍各港等に通ずるの線路は必ずや廣軌ならざる可らず
どの最低度消極的制限を附し以て軍事論者の心を慰せんと欲するなり但し是れにても尙不五分なりとの説もあらんかなれども現に聯隊區司令部は殆ど各府縣下に設置さるゝの實際なり有事の日兵員の動搖を要するに當りても此等司令部を聯絡するの線路にして一齊に廣軌の輸送をなし乗替の手續を要せざるととなれば一先づ兵機の用に充つるを得るならん歎
軍事上の爲めに廣軌を必用とするの制限は看出されたり是れより轉じて貨殖上に移り好し聯隊區司令部間を聯絡するの線路に非ざるも物産運輸の頻繁は是非共廣軌を必用とするもの亦た少なきに非ざるべし
只だ夫れ此の貨殖上の關係に至りては必ずしも乗客何人貨物何噸以上と以下とを以て區別すべくもあらざる程度の問題頗る熟考を要するものあらん是に至りては素人たる余等の漫に揣摩の見を逞ふべきことには非ざれば他日當局者の提案出づるの日を待つの外なきのみ

九州四國臺灣北海道の軌道制

本土の鉄道に就ては既に余の卑見を吐露し畢はれり九州四國臺灣北海道等島地に關するの實地方法は如何にすべき乎

本土と九州との間なる馬關門海峡は其の距離真に一葦帶水に過ぎず英斷を施すに於ては海峡に橋梁を架することも容易なるべく更らに軍事上の都合を計れば水底鉄道を布設することも望みなしとせず九州の線路は本土と同一の觀察をなさざる可らずとは是れ急派激派の論者が主張なり余は架橋説なり水底説なり何れも壯快なる論旨として喜ばざるに非ざれども此等の布設計畫を見込みて九州の形勢を云々するは少しく早計に失するに非ずやと思へり

然れども九州は九州其れ自身に於て地理上歴史上共に重要な關係を有し現在に於ても政治上經濟上齊しく忽諸に附す可らざるの元素たり余は九州筑豊等の大幹線路は言ふを待たず其他の線路に於ても彼の聯隊區司令部間の線路乃至海軍々港に通ずる線路及び鐵道布設法中の豫定線路等に於ては本土に於けるが如く廣軌制の採用を希望する也

四國臺灣北海道の三島地には狹軌道を存すべしとは

の吾人之と愧づ

臺灣一島地の内に於て臺東地方の今昔尙は蕃族の巢窟たり未だ遽かに文化の談柄に入ると得ざるべし只だ彼の臺北より臺南に渉れる西部の一半の今日こそ馬倭寇の揚句とて萬事緒に就かざるものありと雖も地味と云へば元と固と天府の樂土たり人民と云へば早く既に戸口増殖して有無交通の便宜足る施治の方針宜しきを得べし日あらざして我が内地と同一の境遇に在らしむべし余の此の地方に於ける鐵道の布設の斷じて廣軌制に依らざる可らざるを信する也

若し夫れ北海道の如き王化の露ふこと臺灣に比して日久しく土地亦た廣大なりと雖も奈何せん拓殖の治績三十年來尙は甚だ擧らざん今後幾年の後に果して屋瓦相接し鶏犬聲和するの境界に至るべきや實に一大疑問に屬せり余の北海道地方の鐵道論に關して未だ容易に云々の斷言と下し得ざるを恨む抑も拓殖の方針今日の如く曖昧未定の有様をらんには已むと得ず狹軌鐵道も尙は無きに優ると言ふの外なきのみ

乙論者たる某の工學家が明言せる所なりと聞く而して其の理由を問へば只だ惟だ「本土と九州とに於て改築する所の線路より狹軌の軌條を抜き去りて之を以上の三島地に用ゆれば恰かも廢物利用の役をなし財政上に一大便利たるべし」と云ふに過ぎず余は當局者に非ざれば右の所説中なる軌條流用の遺線論に關しては果して其の過不及あるやなしやを明言すること能はざれども好し流用遺線の一段は充分に附き得るにせよ斯る一時の費用話に拘泥して邦家百年の大計として獨立に之を議すべく一時の工夫は一時の工夫として亦た獨立に之を談すべし必ずしも相關與するを要せざるなり

去れば永遠の大計として觀察せば如何と云ふに四國の地方たるや九州と本土との間に挾まれ有事の日に必すしも廣軌制を採用するに及ばざるが如しと雖も一時の決斷は長なへに百年の行掛りを造成するものなれば余は此際にて寧ろ思ひ切りて四國に廣軌制を敷くことを主張せんと欲するなり二千年來の吾千年來の吾人が同胞として臺灣の如き北海道の如き新附の地方人民と同一の境遇に陥らしめんこと

急而穩論者の眞面目

を明らかにす
前來叙べたる所は如何なる線路を廣軌となさざる可らざるやの問題を討究して余の意見を吐露せるに止まり如何なる線路を廣軌となさざるやの問題に論及せるに非ず則ち非廣軌論者に對して廣軌論者の決して讓歩し得ざる細路を明示したるのみ若し夫れ廣軌論者をして敵陣に突貫するの場合となれば直ちに進んで其の中堅を衝き全國の線路をば一齊に廣軌となすべしと言ひたさることなれども事實は決して左る極端の判斷を許さざるものあるなり

第一 我邦の鐵道政略たる年來其の方針を一定せず時に或は官設を主義とし時に或は民設を主義とし忽ちにして買上論となり又た忽ちにして拂下談となる紛々擾々之間に今は官民二種の鐵道並び行はるることとなり實際の形勢として遽かに全國の線路を國有とし民有とすること頗ぶる面倒なる事情あり既に官民何れとも一定し能はざる以上は軌道制改善の事亦た從て畫一に出づること能はざるものあるなり

第二 狹軌の舊制に由りて現に布設され居る所の官私の鐵道其數甚だ多し改善の費用必ずしも省しむべきに非ざるも國費多端の今日又た多少の省慮をなさずんばならず

第三 軌道畫一の制度固より結構なるが如しと雖も是れは其の大体に就て言ふのみ若し夫れ國內僻遠の土地に至りては英米諸邦と雖も狹軌に由るの線路を併用せり我邦の今日に於ても私設鐵道條例中既に三呎六吋以下の輕便鐵道を特許しあり青梅鐵道其他十數種の線路は現に此の特許を受け居れり事實の上に於て必らず畫一と判定し難きもの出來するも亦た止むを得ざるなり則ち余は廣軌採用の急速なるべきを主張するも其實施の區域は頗る餘地を存するの見込なるを以て前述四種の論者中乙論者の一人たりと謂ふ所以なり余の論旨は然かく穩和にして他の鐵道普及主義論者に向ひ充分の餘地を存しありと雖も是れは此れ廣軌採用強迫論の側よりして穩和主義を執るのみ則ち他に對して可成寛容の説を抱持するものなれども轉トて身親ら鐵道關係者たる者在りては寧ろ思ひ切

りて此際廣軌鐵道に改むるの方針を執らんことを忠告するに堪へず何となれば彼等關係者にして徒らに一時の手續と費用とを厭ひ目前錙銖の利害に拘泥して軌道の改善をなさず之に反し他の接近せる線路は概ね廣軌道となれる場合ありとせんに其の併行せる線路の爲めには競争上敗を取り其の聯絡せる線路に對しては車輛の應用をなすの便を失ひ生存競争の世に立ちて迎も承續するの見込ある可らざればなり且つ夫れ世運の進歩は長足的なるに由り運輸の増加は看るく擴大し數年ならずして何れの私設鐵道も運輸の滯滞を告ぐるごと今日の東海道線路の如くなるに至らむとす此時に至れば勢ひ狹軌複線を布設せざる可らざるや必せり何ぞ若かんや今日に於て輿論の叫聲に應じ斷然廣軌道となし置きて他日複線布設の莫大なる費用を避くるの便なるに

實地着手の方法

廣軌採用の程度は略は定まりぬ實施の手段は將た

如何すべきと余は左の數項に分ちて論ずる所あらんとす

第一 本年度着手の官設線

此種の線路は本問題と最も重要な關係を有す現に廣軌論の爾かく勃興せる其の大原因は東海道線中央線等本年着手の官設線工事に注意するよりして生じたる本館なれば東海中央諸線の如きは固より斷々手かる手段を以て廣軌道を布設せざるべからず余は豫てより建議案の通過をして一日も早からしめ當局者をして第九議會中に右線路に關する廣軌採用的追加豫算案を提出せしめんことを希望したりし今日となりては此の希望は畫餅に屬し畢はんぬ則ち豫算の表面上は狹軌道布設の事に歸したれども第十議會の開期(本年十一月)迄半年の間に當局者の着手する處置は重きに用地の買上げ從て道敷の土盛等に過ぎざるべく隧道橋梁等の大工事に及ぶべくもあらざれば當局者は半年の日子をば重きに廣軌採用に關するの調査に費消なし第十議會の開くを待ちて直ちに廣軌採用案を提出せんことを欲するなり若し然

らずして先後の勘辨なく急遽大工事に着手することあらんには第十議會の輿論は忽ちにして當局者を狼狽せしむることとならん

既往は證方なきも將來は尙ほ追ふべし余は當局者に向て改制に必用なる線路の調査を怠らざらんことを忠告せんと欲す聞く所に由れば東海道線の如きは往年創起の際偏へに速成を期するに過ぎたる爲め工事上の困難を研究せずして進行したる場所もあり狹軌複線の布設にさへ差支を生ずるもの少なしとせず又た或は偏へに路を海岸に取りたる爲め軍備國防上由々しき危虞を抱かしむる場所も多しと云ふ斯る線路は今に及んで充分の調査を遂げ新制採用と共に一

第二 現在工事中の官設線

奥羽北陸其他現に工事中に在る所の官設諸線は何れも廣軌採用の範圍内に在るべきこと勿論のものなれ

は此等線路の工事執行に關しても余は大体上東海中
央諸線に對すると同様の忠告を呈せんと欲す則ち向
ふ半々年間未成の線路に對する方針は主として廣軌
採用に備の調査を目的とされんことを希望するなり
其の既に落成せる工事の如きは暫らく其儘になし置
きて第十議會の結果を待つの外なかるべし

實地着手の方法(下)

第三 既成の私設線路

廣軌採用の範圍内に在る所の既成の私設線路を如何
にすべきや是れ廣軌論者の一大疑問なるべし余が前
號に論じたる如く斯る大線路の私設鐵道會社は永遠
の大計上自ら進んで廣軌を採ること自他の爲めに便
利ある次第なれば其の自ら爲すに任せて可なるが如
く思はるゝのみならず現に山陽會社の如く天下に率
先して勇往敢爲の宣言をなす者さへありと雖も愈よ
實際に改築の場合殊に他より改築を命ぜらるゝの
場合となりては人情の私しは永遠の大計を忘れ眼前
の利害を云々して容易に廣軌を可とせざる者も少
きに非ざらん
之に處するの方法は種々あるべしと雖も余は彼れ是

れと云はんよりは思ひ切りに相當の助成金を國庫よ
り下附するを以て得策なりと信ず固より助成金を
下附するに付ては年限を附し條件を附して竣功を誓
はしめざる可らず會社の資力あるものは強ち助成に
及ばざるもあるべし現に莫大の補給利子を下附しあ
る線路の如きは報恩の一分として改制の費用を負担
せしむるも一方法たるべし或は寧ろ貸下金として漸
次償却せしむるの説もあらんと雖も要するに政府の
側より言ふときはあらゆる線路に助成金を下附する
丈の決心あるを要す此際此際區々の費用論に拘泥
して大局を誤るべきに非ざる也

第四 未成の私設線路

未成の私設線路にして廣軌採用の範圍内に在るものは斷
乎として之に新制の實施を命ずれば可なり又た些の
助成を要するに及ばざることを論を俟たず
私設線の今ま尙ほ請願中に在るものに向ては當局者
は豫め其の將來に廣軌制たるべき見込を告げ道敷
の取り方其他の工事準備總べて其の心得を以てすべ
きことを沙汰し置くべしとす
斯くて本年冬期第十議會の開設に至らば政府は其の
劈頭に於て廣軌採用に關し必用なる法律案と共に

甲 本年度着手及び工事中の官設線に對する豫算

追加

乙 既成の官設線改築の費用豫算

丙 既成の私設線改築助成の費用豫算

を具して議會の協賛を求むるを要す既に大多數を以
て廣軌道の建議案を通過せしめたる衆議院は固とよ
り言を待たず貴族院も亦た輿論の傾向を信重して之
に賛同を表すべきは豫想するに餘りあり
思ふに廣軌制の採用は第十議會の劈頭に決せらるゝ
ならんと雖も其の實行全く畢はるの期は尙ほ向ふ十
年を要することならん十年の豫想は依々の間に十五
年を費すに至らんも亦た知る可らず東洋の風雲は如
此く危急を告げ戦後の事業は如此く多端を極むるの
際在りて吾人が進取の熱情は矢を射るよりも疾さ
ものあり當局者翼ばくは今後半年間充分の心血を絞
りて適當なる方案を畫し第十議會の協賛を得るに務
められんことを

廣軌鐵道に關する

市嶋代議士の談話

(其二)

鐵道の流行は我邦にては申すに及ばず歐米にても未だ軌近のことにて之に關する議論の一定せざるもの亦た少なからず之を布設する方よりは官設民設の議論あり之を連轉する方よりは瀛力電力の競争あり何れも重大なる問題なれども此外に鐵道(レール)ウェ一)其者に關するの議論もありて中に就き廣狹軌道論の如きは其最たるものなり

軌道(ゲージ)とは瀛車の車輪が軌條(レール)の上を進行するに付きて其の軌範とすべき道幅のことなり此幅は凡そ何呎何寸のものたるべきやと云ふが即ち軌道論の要旨なるが儘て其幅に付ては決して世人の一寸想像するが如く簡單なる話しに非ず今日世界各國に行はれ居る所の軌道を調べ見るに總べて二十一種類の多きに上れり先づ其中にて最も幅の廣さと云ふは

英國に於て大西鐵道と稱する鐵道に用ひらるるものにして七呎餘もあり
又た其の最も幅の狭さと云ふは是亦た英國倫敦なる機關工場に於て工場關係の運輸を充

たすが爲め用ひらるるものにして一呎六吋なり

右の如く七呎餘と一呎六吋との間に五呎六吋ある其中には十九種類も軌道のあるとなるが十九種類の軌道が平均の流行を保ち得ると云ふには非ず其中の二種類を除きては一ニヶ處のみに専ら行はれ居ると知るべし

去れば普通に流行する所の軌道とは何呎幅のものなりやと云ふに則ち四呎八吋半と三呎六吋との二種類なりとす四呎八吋半の軌道は

歐羅巴にては英、佛、獨、澳、伊、瑞、蘭、匈等の文明國に用ひらるるのみならず亞弗利加にては埃及及び喜望峯殖民地。亞細亞にては爪哇。澳斯太利亞にては新西威爾斯。北亞米利加にては合衆國。南亞米利加にては秘露等にも行はれ世界五大洲何れの邊にも行き渡り居れり

三呎六吋の軌道は是亦世界の各地に用ひらるれども歐羅巴にては那威。瑞典等の北陸の邊土に於てするのみ亞米利加にては合衆國には之れなし
如くにして二種類の中にては四呎八吋半の分が今日にては最も廣く用ひらる去れば何故此の四呎八吋

半が最も流行を占むるやと云ふに是れは必ずしも始道に之れ由らん」と力身居る者もなしとせず八様々めより學理的に最善の軌道を見立てられしには非ずの世の中なり

以上叙し來る所によりて見れば軌道の幅の寸尺には廣さも狭さも何れ際限ある可らず廣と云ひ狭と云ふ是れ只だ比較的の言葉たるに過ぎざれば何吠何時のものも指して廣とし何吠何時を狭とすべきやは人々の勝手次第なれども今日の鐵道界にて議論となり居れる廣狭の兩軌道とし云へば右の四呎八吋半(廣軌)と三呎六吋(狹軌)との二種類に歸着するなり斯くて廣軌道(ブロードゲージ)狹軌道(ナローゲージ)とある中に廣軌道こそ管に實際に流行するのみならず今日に於ては其の理論上の有効も証據立てらるることなれば之を稱揚して本位軌道(スタンダードゲージ)或は標準軌道とも云へり恰かも彼の貨幣界の議論に金貨本位、銀貨本位杯の説あると一般にして貨幣界に金貨本位に拮抗し銀貨を主として屈せざる者あれば鐵道界にても「何ぞ必らずしも廣軌

廣狹軌道の研究をなすに當り先づ第一に付き陳述するを要す蓋し鐵道の利益として何より重大なるものは運輸の速度なればなり廣軌の狹軌よりも速度大なることは論より証據。事實に於て見らるゝ所なれども其の何故に然るやの研究も肝要ならずとせず試に其の理由を尋ねるに

速度

蒸氣の噴出する其力の大小如何と見るに狹軌の方にては蒸氣の小なるが爲め由りて生ずるの動力も亦た少なく之に反し廣軌の方は漏桶大にして動力も亦た多し

狹軌の車輪小なるものは回轉の度數繁き其の速度は低く廣軌の車輪大なるものは回轉の度數緩き速度は高し

狹軌に在りては回轉部小なるが爲め廣軌よりも回轉の際摩擦力を加へ爲めに進行を遅緩ならしむ

此の三事情は兩軌速度の相違を生ずる主なる原因と云て可ならん歟

狹軌の速度實際幾何にして廣軌は幾何なる乎地理形勢其他種々の事情に由り一定の斷言をなし難しと雖も我邦現在の鐵道(狹軌)にて最大速度一時間五十哩位ひならん平坦なる線路にて四十哩にして險夷相交はる所の東海道線路にて二十哩の割合を保ち居れり今また英に於ける廣軌の速度最大なるは一時間九十哩に達すと云へば是れは速度の最高限を示したるものなれば他日廣軌採用の際我邦にては平坦なる處にて六十哩、險夷相交はれる東海道に於て三十哩位と見て可ならん即ち廣軌は狹軌に比し其の速度に於て五割増しと測定し得らるべし

牽引力

の研究は速度に次ぎて重要な問題なり蓋し電信は遠達の點に於て甚大なりと雖も通信の用を充たすに過ぎず貨物を運送すること能はざるを以て遺憾頗る少なしとせず廣軌電車如きも假令其の速度の點に申分なしと雖も多くの貨物を運送し得ざる時は未だ甚だしき便益の器械と云ふを得ざるべし何となれば其の運送する所の少數の貨物こそ迅速に彼方に達するなれば夥多の貨物は積載に洩れて空しく路傍に暴らざるが如くんば到底日新進歩の經濟世界に立ちて需用を充たし得ざるを以てなり

牽引力の問題凡そ左の如くなるべし

軌條強ければ重き機關車を支へ得べし
機關車重ければ大なる車輛を牽き得べし
車輛大なれば多くの貨物を容れ得べし
軌條強ければ軌條も強く機關車も重く車輛も大にして從て其の積載する所の貨物亦た多しとす

我が狹軌の現制にて軌條は六十一斤(磅と同一)半なれども廣軌となれば九十斤を用ひ狹軌にては機關車は三軸連結車なれども廣軌にては四軸連結車たり狹軌にては車輛一人の座席一尺三寸なれども廣軌にては一尺六寸なり以て廣軌の狹軌に比し牽引力の大なる所以を知るに足るべし

或人試みに軌條を今日の儘(即ち六十一斤半)になし置き機關車と車輛とを廣軌用に取替へて軌道を廣むると見做し其の牽引力を計算せるに今日百二十五噸のもの他日二百噸に上るべし即ち廣軌にて六割の増加を見るなり

若し軌條をも九十斤に改めたらんには牽引力は二倍に上ることならん斯くて總体の運搬力(速度と牽引力とを合したる)如何と云ふに

速度	一、五	に
牽引力	二、〇	を乗ト
運搬力	三、〇	となる

正さに三倍の増加を見る

運搬力の上に於て斯く非常の相違ある一點のみにて
も廣軌の制度を採用したるものなるが更らに貨物運
送の事を別にして我々人間が乗込む話として見るも
い 坐席寛ろき居りて動作自由なり
ろ 瀛車の動搖少なくて長途の旅行に痛苦を減
す

は 今日の狹軌にては便所さへも備付け充分なら
ざるに反し廣軌となれば寢臺さへも備はりて千
里夢を載せて行くを得べし起れば則ち浴室車あ
りて旅中の塵を洗ふべく加ふるに理髪店の設け
さへもあり此他食堂に至れば山海の八珍口腹を
養ふべく書室に入れば東西の百卷心目を樂まし
むるを得べし之を今日の狹軌にて三度の食事は
怪しげなる折詰辨當に依頼し毎日の新聞は停車
場にてさへ一二種の外は備へ付けなきものに比
して便利と愉快との相違將た幾何ぞ
貨物の點に於て乗客の點に於て斯く計り便利なる所
の廣軌鐵道が何故に我が日本に今日迄採用されざり
しやと云ふに是れも亦た別段の事情あるに非ず只だ
明治三四年の頃初めて京濱鐵道を起業せるの際には

何事も費用の少なからんことを欲したるより充分の
研究をも遂げずして三呎六吋の軌道を用ひ遂に二
十五年の久しき同一の制度を持續したりしに過ぎざ
るのみ

豈に嘗て我邦に於てのみならんや二十餘年前の當時
に在りては歐米各國と雖も軌道の事に就ては尙は未
だ充分の智識を有したるもの非ざりしなり明治六年
(一千八百七十三年)の二月英國倫敦の工學會に於て
印度鐵道の軌道に關し一大討論會の催しありたるも
印度政府は兎角の詮議にも及ばず狹軌を採用したる
を以て見るも日本政府が二十五年前の當時に於て狹
軌道を採用したりしは咎むる迄もなき事と云ひつべ
きなり
當初の狹軌採用は之を咎めずとするも爾來今日迄一
人の利害得失を論じたる者なかりしや否やは茲に討
究を要するの問題たり我々の知る所を以てせば日本
政府が狹軌を採用せることに關しては之を惜みたる
もの決して一二人に止まらず現に元と我が鐵道局の
御雇たりし「ポール」氏の如きも疾くに狹軌の不利な
るを痛論せる事あり降りて帝國議會開設の後ち鐵道
會議開けたるの際に於て谷干城子は廣軌の利益を唱

道したりしと當時の會議録に明白なり此の如く内
外識者の注意ありしに拘はらず我鐵道の狹軌制の儘
に繼續し來りたるのみならず今日となりても當局者
の間には兎角改善の議論耳に入り難き實況なるは慨
歎に堪へざる次第と申すべし
支那の如きは世界第一の守舊國と稱せらるるに似
か一度文明の制度を利用すると定めたる以上は情氣
もなく之を遂行するの事は感心に堪へざることも
なり即ち今回天津北京間に布設するの鐵道の如きも
斷然廣軌の複線と定めたるが如き以て其の進取に銳
意なるを見るべき也

未だ改善の必要を認めざりし時代は是非もなし既に
之を認めたる以上は直ちに改善の途に就くべきは文
明國の必須事業なりとす前段に述べたる如く鐵道界
の本位論は恰かも彼の貨幣界の本位論の如き觀あり
と雖も既成本位改善の一段に至りては大に其の實相
を異にする所なくんばあらざる蓋し貨幣本位の如きは
其國內に於ける金銀の産出高に由りて影響する所
あるのみならず貨幣其者の流通質なるが爲め本位の
變更と共に忽ちにして貨幣の外國に流出するを免か
れず爲めに經濟上に一方ならざる恐慌を來すことな

しとせず之に反し鐵道其者の如きは性質上流通的に
非ざるが故に一國內本位に變更ありとも之が爲めに
軌條なり車輛よりの内外移動を來たすべしに非ず從
而決して經濟界に著るしき恐慌を生ずるの憂へなし
只だ一時改善の際に於て鐵道會社(官設なれば鐵道
局)其者が多少の手續と費用とを要するの面倒ある
のみ一度改善を施したる以上は毫も其の以上の面倒
あることなし而して他の一般人民に至りては始めよ
り痛痒を感ずることなし只だ鐵道會社が改善の結果
を享受して其慶に頼るべきのみ

廣軌制を採用するに就きて講究すべきの問題は只だ
夫れ之を採用するに付ての手續と費用とのみなりと
せば此の二者に付て研究する所なかる可らず而して
手續の如きは素より繁雜なるものあるべしと雖も
文明の事物を採取するに方り多少の面倒を見るは免
かれざることを理の當然なれば茲には之を略し只だ廣
軌制採用に就ての費用如何と見るべきのみ
費用と云へば一に建設費二に營業費是れなり建設費
は固より狹軌に比して増加するとも減少すべき次
第なきは勿論なり但だ廣軌採用の上は三層倍の運搬

力を要するを以て見れば建設費も亦た同様の増加を要するならんと思惟する者あるべきも實際は決して左る次第に非ず却て計算に掛らぬ程の増費なりと知るべし

其所以を説明せん凡そ鐵道を布設するに付きて入用なる費目二十種に内外すと雖も軌道の幅廣さが爲め殊更らに要する増費は其目多きに非ざるなり即ち線路測量費の如き工事監督費の如きは軌道の幅員増加するが爲めに別段の費用を要することなし線路に要する所のコルベルト費及び伏樋費の如き諸建物費及び柵垣費の如き建築費及建築器具費の如き多少の相違なしと云ふ可らざるも大体に於ては差異なきものと見て可ならん

其の増費を要するの項目は如何最も著るしきものは軌條及び枕木に要するものにして凡そ三割内外ならん車輛購入及び停車場設置に關する費用之に次ぎ何れも二割計りの増加
隧道橋梁費及び器械場費運送費の如き之に次ぎ何れも一割の増加
なれば諸種の費目を概算して平均一割五六分乃至二割の増加と見れば大差なかるべし

一割五分の一時増費に由りて三層倍の永久運搬力を加ふるとせば天下豈に之れより廉なる所の投資事業あらん哉

難する者ありて曰はん建設費と運搬力との比例は遮莫れ建設以後倍加の運搬をなすに付ての營業費や必らず大なるものあるならん
蓋し皮想の見なるのみ試みに之を論ぜば
い 廣軌に由れば列車の回数を減少するのみならず枕木の外面廣大なるが爲め列車の線路を動搖する力弱し從て線路保存費を減少し得べし
る 車輛大なれば積載する所の貨物は多しと雖も之が爲め列車の乗組員即ち機關手火夫等を多數要するにわらず則ち吏員の點に於て費用を節省すべく又た列車の回数少なくて同一の重量を運搬し得べきが爲め石炭の消費比較的減額する割合なり

は 列車回数の少なきが爲め車輛少なくて間に合ふのみならず其の回轉部狹小なるが爲め抵抗力を減つて從て車輛修繕費を省き得べし
然かく計へ來るときは營業費の如きは實に増加せざるのみならず狹軌に比して却て減少の實あるを見る或人の勘定にては凡そ一割五分方の減少は慥かならんと云へり

前段論トたるが如く廣軌道布設後の營業費即ち通常

經費の一事は却て得益のある勘定なりとすれば廣軌制採用に關し費用の點より來るべきの攻撃は實に夫れ一時要する所の建設費に在るならん歟

建設費の増加一割五分乃至二割と云へる目安を金錢上の實額に見積りて如何なるものぞといふに今ま夫れ全國既成線路中官設は五百八十哩にして其工費は四千〇三十九萬四千四百五十四圓（一哩の平均六萬五千九百八十圓）

又た民設千五百三十七哩の工費 六千〇七十九萬四千二百十二圓（一哩の平均三萬九千五百四十二圓）
なれば官民設總体の線路二千百十八哩に對する工費は

一億〇百拾八萬五千五百五拾六圓（壹哩の平均五萬貳千七百六拾貳圓）
にして壹哩の工費凡そ五萬圓と見るを得べし壹哩五萬圓に向て貳割増し壹萬圓を加ふるとは一開直ちに少なからざる増加の如く感ぜらるゝと雖も異りて百哩の工費五百萬圓に向て百萬圓、尙ほ異りて千哩の工費五千萬圓に向て壹千萬圓を加ふると云

へば左邊八耳を發動するに足らず所謂第一期線各

線路費用壹億三千萬圓に對し其の貳割貳千六百萬圓を加ふると云へば更に驚くに足らざるを覺ふ之を警ふるに一ヶ月五圓の月給を受くる小使が壹圓宛出費を増すに於ては殆んど一家を維持し難かるべきも五百圓取りの大臣となりては百圓宛の支出増加の爲め進退に究する程のことなきと一般なり

右は假りに二割の増加費用は支出するのみにして戻り來らざるものと見て論じたるものなれば前段評述せる通り此の僅々たる貳割の増費を建設に向けるが爲め布設以後は三層倍の運搬力を得らるゝ次第なれば一時の投資決して容れむに足らざるなり

更らに建設費と營業との相互關係上より之を觀察するに統計表の完備せる官設線に由りて其の建設費は凡そ六萬六千圓（前出）之れが貳割増しは則ち壹萬三千貳百圓なりと知られ而して其の營業費は五百八十哩にて貳百〇八萬七千五百貳拾五圓（明治二十七年）壹哩平均三千五百八十圓之れが一割五分減りは則ち五百三十七圓なりと注せらるる
建設費増加 一萬三千二百圓

營業費減少 五百三十七圓

を對照するときは一方に於て營業費の減少に由りて
利得となる所の金額は他方に於て建設費の増加に由
りて損失に歸する所の金額に比し正さに四朱の利子
に相當するを見るべし則ち一時投する所の建設費の
餘分は爾來毎年四朱宛の利子を營業費より償却さる
割合となるなり

右に掲出せる一哩六萬六千圓の建設費なるものは其
昔し京濱間線路布設の際一哩十六萬圓も掛りたるも
のをい入れて平均を取りたるなれば今後建設費の平
均は漸次減少することと知るべく從て之に對し營業
費より償却さるる所の利子は五朱六朱と漸次昇り行
くものと見て差支なからん
之を要するに廣軌道の制は管だに大層上より打算し
て採用すべきの進歩的運輸組織なるのみならず鐵道
營業者一人としての懐合勘定よりするも利得ある
ものと云つて可なり廣軌乎廣軌乎今後布設すべき鐵
道の軌道は夫れ廣軌なるかな

